

教材名	青の洞門	教科書	日本文教出版（学研、東書、光文）	学年	6年
内容項目	感動、畏敬の念	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと			
内容項目のとらえ方 (子どもの実態を踏まえ)	文学作品を教科書に使い、了海の生き方に対して感動や畏敬の念を持たせようとする教材である。ここでは彼の生き方をあえて「反面教師」ととらえ、子どもたちと人間らしい生き方について考えあいたい。				

授業の展開

子どもたちの活動	指導上の留意点
<p>1, 物語を読む 読んでいてわかりにくい箇所については質問する。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仏の道に入り人の役に立ちたいと願うくらいならどうして自首しなかったのか。 ・ 食べ物とか寝るところはどうしていたのか。 ・ 家来に主人を殺されたら家をとりのつづされるのか。かたきをうてば家を再びおこすことができるとはどういうことか。 <p>等</p> <p>2, 教科書にある「手引き」からは、どういふ答えを求めていると思うかを考え、「模範解答」を考える</p> <p>例 多くの人の命を救うために、自分の命をかけて、長い年月をかけて洞門をほり続けとうとう完成させた了海はすごい。</p> <p>3, 果たしてそうなのか、次の発問を通してあらためて了海の生き方を考えてみる。</p> <p>発問1 罪を犯したら、了海のようにずっとふつうの生活をしてはいけないのか？</p> <p>発問2 21年の間、了海はどんなことを我慢して生きてきたか、想像しよう。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おいしい物をお腹いっぱい食べること。 ・ 温かい布団で眠ること。 ・ 熱いお風呂にゆっくりつかること。 ・ 好きな人ができたら一緒になること。 <p>などなど</p> <p>発問3 もっと人間らしい生活をするために他の生き方はなかったのだろうか、考えを出しあう。</p>	<p>比較的近いところの話であり、教科書には載っているが、何枚かの写真で実際の青の洞門を見せる。</p> <p>長い文章で、わかりにくいところも多いので、子どもたちの疑問には随時答えていく。</p> <p>教科書では、このような問いかけが文末に用意されていますが・・・</p> <p>手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洞門をほりつづけた了海の姿から感じたことをまとめよう。(日文) ・ 了海の心や行動について感じたことを話し合しましょう。(光文) ・ ひたすら穴をほり続ける了海についてどう思いますか。(学研) <p>罪に対する反省や被害者への謝罪の思いは前提としつつ、今は、罪を償えば社会に復帰して幸福を求めて生活ができる。</p> <p>子どもたちからたくさんあげてもらう。そしてそれらのことが「人間らしい生活」には大切なことだと気づかせていく。</p> <p>例 「ちゃんと罪を償い、その後洞窟を掘って人助けをするという方法もある。」 「資金を集めて家や道具なども買って、毎日通ってきて洞窟を掘るというやり方もあるのでは」など。</p> <p>オープンエンドで終わる。</p>